

Advance

#ネガティブよりポジティブでつかむチャンス

「えー、いやだ！なんでそんなことやらなきゃいけないの？」

授業や活動の場面で、子どもたちからこんな言葉を耳にすることがあります。最初の一步を踏み出す前に、拒否の言葉が出てしまうことが多いのです。

ところが、不思議なことに実際にやってみると――

「めっちゃ楽しかった！」「いっぱい学べた！」「またやりたい！」と、目を輝かせて感想を伝えてくれます。これは教師として本当に嬉しい瞬間です。

一方で、こうも思います。最初の「いやだ」「どうせ無理」という言葉が、チャンスを逃すきっかけになってはいないだろうか、と。

人間関係は「言葉のキャッチボール」で成り立ちます。

最初にネガティブなボールを投げると、相手は「もう誘うのをやめよう」と感じてしまうかもしれません。逆に「ちょっとやってみようかな」「面白そうだね」と返せば、相手はもっと一緒にいたくなるものです。

心理学者アルフレッド・アドラーは「人間の悩みのすべては対人関係の悩みである...」と言っています。人との間で交わされるたった一言が、自分の未来を大きく変えることもあるのです。

今週水曜日に扱った道徳教材『「どうせ無理」をなくしたい～夢や目標をあきらめない～』では、困難を乗り越えた人々の実例が紹介されていました。発明王エジソンは、「失敗ではない。うまくいかない方法を1万通り発見しただけだ...」と語りました。最初から「無理」と言っていたら、電球は生まれなかったでしょう。

【試験運用】聴くClassNewsletterはこちら

またアップル創業者のスティーブ・ジョブズも「Stay hungry, stay foolish（ハングリーであれ。愚かであれ）」と伝えています。人に「無理だ」と言われても、自分で試してみることに価値がある。そうした姿勢が新しい世界を拓くのです。

先日の「科学の甲子園ジュニア」の活動でも、最初は「えー...」と言う子がいました。けれども取り組み始めると、6人で協力し合い、最後には「来年も挑戦したい！もっと勉強したい！」という声があがりました。

この瞬間、私は「拒否の言葉を言う前に、まずやってみること」の大切さを改めて実感しました。

ぜひご家庭でも、お子様が何かに挑戦しようとするとき、最初の言葉に耳を傾けてみてください。もしネガティブな言葉が出てしまったら、「そんなこと言わずに、まずやってみたら？」と優しく背中を押してあげてください。その一言が、新しい体験や人とのつながりを広げる大きな力になるはずです。

子どもたちへ。「どうせ無理」「やりたくない」――その言葉を言う前に、一度深呼吸して「やってみようかな」と言い換えてみてください。もしかしたら、その一歩が未来の自分を変えるかもしれません。人生には、自分からつかみにいかなければ手に入らないチャンスがたくさんあります。どうか自分の可能性を、自分の言葉で閉ざさないでください。

言葉ひとつで、人間関係も未来も変わります。私たちの願いは、「どうせ無理」をなくし、夢や目標をあきらめず挑戦できる子どもたちを育てることです。ご家庭と学校が一緒になって、子どもたちの「最初の一言」をポジティブに変えていけたら嬉しいです。

We will value "Purpose" and "Ownership" for you

Advance



- # 探究、報告
- # SunsetFestival
- # 演劇
- # SOLANサイコー！
- # 科学の甲子園ジュニア



We will value "Purpose" and "Ownership" for you